

本日ここに津山市制施行90周年記念式典を挙行いたしましたところ、公私なにかと御多忙にも関わりませず、多数のご来賓、ならびに、津山市各界の皆様のご臨席を賜り、心から厚く御礼申し上げます。

津山の地は、和銅6年、西暦713年に「美作国」が建国されて以来、総社に国府が置かれ、中世には守護所として院庄居館が築かれるなど美作地域の政治、経済、文化の中心地として栄えてまいりました。

慶長8年、1603年の森家入封後は、津山城築城と同時に城下町の建設がなされ、現在の津山市中心部の基礎が出来上がることとなりました。

明治時代に入り、津山口・岡山間の鉄道開通を始めに、様々な社会基盤整備が進められ、現在の中心市街地が形成されていくこととなります。

そして昭和4年に、岡山県下3番目の市として、津山市が人口約3万3千人で誕生いたしました。それ以降、合併を繰り返して市域は広がり、平成17年2月には加茂町、阿波村、勝北町、久米町との合併により現在の津山市となつて、岡山県北の拠点都市として着実に発展してまいりました。

今日、このように市政が伸展しましたのは、明日の津山を思い、熱意を持ってまちづくりに取り組まれた先人たちのご努力と市民一人ひとりの力が結集した成果であり、改めて心から敬意と感謝を表する次第であります。

津山には、先覚者たちの大きな業績が刻まれており、特に、江戸時代後期から明治にかけて活躍した宇田川家、箕作家を中心とした洋学者たちは、いち早く西洋の学問を研究し、日本の近代化を支えてまいりました。その功績は現在においても色褪せることなく語り継がれております。

また、国の史跡である津山城跡や城東・城西地区に残る町並み、旧津山扇形機関車庫をはじめとした鉄道遺産など、数多くの歴史的建造物が残っており、現

在においても市民はもちろん、観光客をはじめ多くの方々に、その魅力を発しております。私たちはこうした歴史を誇りの源泉とし、これを受け継ぎ、新しい歴史を築いていかなければなりません。

現在、我が国は「平成」から次の時代へと向かう転換期を迎えています。急速な少子高齢化・人口減少時代の到来や、相次ぐ大規模な自然災害の発生など、史上例を見ない環境の変化に直面しています。

今、まさにこうした社会の変化に的確に対応し、将来を見据えた新しい時代を切り拓く時であります。もちろん津山市も多くの課題を抱えてはおりますが、市民が一丸となって解決に取り組むことが不可欠であると考えております。

津山市はこの90年の節目を契機に、今一度、歴史や文化、伝統に誇りを持ち、「県北の拠点都市」として更なる飛躍を期すべきと存じます。市を挙げて来る<sup>きたる</sup>市制100周年に向けて、明るい津山の未来を切り拓いてまいりましょう。

結びにあたり、今日まで市政発展のためご尽力を賜りました多くの皆様に対しまして重ねて感謝を申し上げますとともに、本日ご臨席の皆様方のますますのご健勝とご多幸を心から祈念申し上げ、式辞といたします。

平成31年2月11日

津山市長 谷口 圭三